

2022年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している」と、前回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている」から下方修正しました。基調判断の変更は、2か月振り、下方修正は2021年2月以来1年振りです。
- 需要項目ごとの判断は、個人消費について、「サービス消費を中心に下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している」、観光について、「引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている」、公共投資について、「高水準ながら弱めの動きとなっている」と下方修正しました。その他の項目には、変更はありません。
- 雇用や金融面については、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、1月、前年を幾分下回りました。オミクロン株の感染拡大に伴い、巣ごもり需要が持ち直す中、食料品は、底堅い動きとなった一方、衣料品は、外出自粛等の影響から低調な動きとなりました。大規模店舗では、年始は来店客数、売上ともに回復の動きがみられましたが、その後は、感染拡大を受けて来店客数、売上とも減少に転じるなど、大きく影響を受けています。また、家電販売は、一部に在庫処分セールによる押し上げや新生活需要がみられますが、家電需要全般への一巡感から、全体としては横這い圏内の動きとなっています。
- 新車登録台数は、1月、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回り、5か

月連続ですべての区分で前年を下回りました。メーカーからの完成車供給は、改善が足踏みしており、登録台数の前年比マイナス幅はやや拡大しました。もっとも、自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できており、販売地合いは堅調です。受注が車の供給を上回っているため、受注残が引き続き積み上がっています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、1月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。4か月連続の前年比プラスですが、持ち直しの動きは一服しています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、1月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで23か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、1月、前年を大きく上回りました。これは、前年がGOTトラベル事業の停止に伴って宿泊客数が大幅に落ち込んだためです。一昨年と比較したマイナス幅は、むしろ前月より拡大しており、オミクロン株による感染拡大の影響がみられました。足もとでは、既存予約のキャンセルに加え、自治体による需要喚起策の受付停止もあって、新規予約が減少しています。旭川市内のホテル客室稼働率は、1月、前年を上回りました。ただ、こちらも前年がGOTトラベル事業の停止で落ち込んだため、一昨年と比較したマイナス幅は、前月よりも拡大しています。
- 各地観光施設の入込みは、1月、旭山動物園、層雲峡、ウトロ温泉、博物館網走監獄が前年を大きく上回り、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、合計でも前年を大きく上回りました。こちらも前年が前述の理由で大幅に落ち込んだため、一昨年と比較した入込み客数のマイナス幅は、同じように前月よりも拡大しています。引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、1月はオホーツクが前年を下回ったものの、上川、宗谷が前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。2021年4月以降の累計では、上川が前年を上回ったものの、宗谷、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回っています。高水準ながら前年を下回る傾向が続いており、弱めの動きとなっています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、12月は持家、貸家、分譲とも前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。基調としては、持家が高めの水準となっているほか、分譲は増加しています。貸家は減少しています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、12月、旭川、稚内、網走が前年を上回ったものの、北見が前年を下回りました。旭川は1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、全体でも1倍超えとなりました。1倍超えは8か月連続です。新規求人数は、12月、旭川、稚内、北見、網走とも前年を上回ったことから、4つの職業安定所の合計でも、前年を上回りました。もっとも、これは、前年の新規求人数が感染症拡大により低水準だったことも影響しています。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、1月、前年を上回りました。1月まで35か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き感染症の動向とその影響がポイントになると考えられます。感染拡大とそれへの警戒感の広がりから対面型サービス消費では強い下押し圧力が続くともみられる一方、財消費では徐々に供給制約の影響の緩和が見込まれます。もっとも、いずれについても不確実性は高く、下振れリスクがある点には注意が必要です。具体的には、①強い下押し圧力が続くもとでの観光、消費の動向、②エネルギー・原材料価格の上昇を受けた企業の価格転嫁の動きやそれが消費マインドに与える影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上